

平成28年度第1回高梁市総合教育会議 会議録

1. 招 集 平成29年1月10日 午後1時00分
2. 開 会 平成29年1月10日 午後1時00分
3. 閉 会 平成29年1月10日 午後3時10分
4. 会議の場所 高梁市役所 3階大会議室1
5. 出席、欠席した構成員の氏名

氏 名	出欠の別
近 藤 隆 則	出 席
小 田 幸 伸	出 席
吉 川 昭	出 席
山 内 廣 子	出 席
川 上 は る 江	出 席
和 久 野 慶 子	出 席

6. 会議に出席した者の職氏名

職 名	氏 名	備 考
政 策 監	藤 澤 政 裕	
教 育 次 長	宮 本 健 二	
参 与	田 村 啓 介	
秘 書 政 策 課 長	前 野 洋 行	
こ ど も 未 来 課 長	渡 辺 丈 夫	
学 校 教 育 課 長	張 谷 孝 文	
社 会 教 育 課 長	赤 木 和 久	
社 会 教 育 課 課 長 代 理	福 田 茂 樹	
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	川 上 啓 二	
文 化 セ ン タ ー 所 長	山 崎 一 広	
学 校 教 育 課 課 長 補 佐	西 川 優 子	

7. 協議題

- (1) 就学前教育について

(2) 高梁市立学校再編推進審議会設置要綱(案)について

(3) 新図書館について

(4) 学力向上及びICT教育について

(5) スポーツ振興施策について

8. 議事の概要

開会市長あいさつ

- ・人としてのことを身につける時期であるという意味で、就学前教育をすすめていきたい。
- ・雑誌で老後安心な町全国ランキング15位という評価をいただいた。教育の面でもしっかりやっていきたい。
- ・子供が心身ともに健やかに育っていく環境が高梁にはあるということを内外に発信していきたい。

(1) 就学前教育について

教育委員：幼稚園に行かない方針の家庭もある。そういう家庭にはどのような働き掛けを行っていくか。

市長：行きたい、行かせたい、行ってみたいというような教育を行う。

教育委員：幼稚園への勧誘もしてもらえたら。

市長：こういう事をやっているということをお知らせする、オープンスクールのようなものも必要かもしれない。

教育委員：健康づくり課の保健師さんなどからも幼稚園勧誘の声を掛けてもらえたらよい。幼稚園の統廃合も考える時期に来ていると思うが、どのくらいの人数になれば考えるのか。宇治は現在3人、松原は来年2人になる。

市長：そういった課題もあると認識している。

教育長：子供が小さいほど家庭との連携が求められている。教育委員会と連携を取って、小さい子供と接するような職員が情報を発信していくような体制ができていればよいと思う。

教育委員：市として就学前教育に重点を置くならば、人を配置して、新しく係か課を作る勢いで就学前教育をお願いしたい。

臨時の先生方の待遇改善が必要である。幼稚園、保育園を生き生きさせようと思えば、見えない部分であるが大切なことであると思う。これは要望である。

市長：今正職と臨時の割合が分かるか。

こども未来課長：正職の方が少ない。

教育委員：先生を育成しないといけないが、研修制度を充実した方がよい。

市長：研修も大事な要素なので、新しい体制が出来た上で推進していきたい。まず土台づくりだが、現在の教育委員会の中でというのは荷が重すぎると思うので、人をそろえることが大事かなと思う。

教育委員：幼稚園が教育委員会からなぜ切り離されたのかと思っていた。教育委員会と切り

離さないようにできる体制づくりが必要と思う。幼稚園に対して教育委員会の敷居が高くなった。人事的にもよく分かっている方がよいのではないか。

市長：教育委員会が一元的に行った方がよいと思っている。

こども未来課長：計画訪問に加え、今年度は就学前のアドバイザーをお願いし、要請訪問を各園少なくとも2回、新人の先生に対してサポートということで回ってもらっている。

市長：改善すべき所は、改善していかないといけない。

教育長：現場からは、先生の年齢差があるために、若い先生に指導してもらえる方に来てもらえるのはありがたいということであった。

どこが担当するとしても、学校に指導したり、統一的な考え方を浸透させたりするような機能を行政全体として持たなければいけない。

市長：2年経過したので、改善が必要である。

教育委員：へき地の幼稚園の先生は、長時間労働になっている。定時で帰ることがない状態なので、体制に無理があるのではないか。

市長：預かりは別の先生ではないのか。

こども未来課長：預かりの専門の方がいない園が5園あり、残業を行っているのが実態である。幼稚園によっては、正職の先生と預かりの先生がセット、やむを得ない場合は兼務園長にもお願いするという実状がある。

市長：人を確保できないということか。

こども未来課長：今までの体制を継承している。急に園全部に一人配置するのは現実的にはかなり難しいのが実状である。

市長：実態は理解した。一つの高粱の課題であろう。

(2) 高粱市立学校再編推進審議会設置要綱(案)について

教育委員：この案でよいと思う。これができてからどのような審議提案していくかである。

安易な統廃合はだめであるが、ある程度の集団規模は必要である。

教育長：小学校、中学校が対象である。幼稚園は、こども園、保育園とのからみがあり複雑で、一緒にはできない。

市長：何らか考えないといけない。ここでしないというわけにはいかない。

教育委員：地域の代表の方が第3条の(1)の中の対象となっているか。

市長：まだそこまでは決まっていない。これから慎重に考えて決める。現在は白紙である。

教育長：審議結果は公表する。

教育委員：移住者は、学校が1つ無くなると移住しにくくなることを心にとめておいてほしい。

(3) 新図書館について

教育委員：移動図書館が中学校はまわらない。中学校の要望があるかないかを聞いて、あれば中学校の方にもお願いしたい。駐車場入り口看板等設置をお願いしたい。

市長：設置しないといけない。中学校も要望あればまわるようにしないと。

教育委員：西側に満車表示があればいい。オープン時80台しか駐車できないと思う。

市長：オープン時他も借りるようにしている。想定されることは満足してもらえるようにする。

教育委員：貸出冊数が20冊から10冊となった経緯は。

社会教育課長代理：利用者は市内者のみの対象が市外者も対象となるため、20冊のままで貸し出すと本が不足するためである。

教育委員：何年か前から20冊になった。15冊くらいにするように検討してもらいたい。

サークルのような仲間づくりのできる図書館になってくれればと思う。

市長：まちづくりの講演会のようなものもある。市民のみなさんと勉強する議論する場もある。

リクエストしてもらえれば、できるだけ応えていけるようにする。

教育委員：読書活動推進計画と図書館をリンクしてもらいたい。読書のまち高梁となるぐらいの方向性をもってほしい。サードブックを行ってもよいのではないか。

市長：サードブックはするのでは。

社会教育課長代理：29年度によりよくするために試行的に行う。図書館に司書の選んだ図書を展示し、見てもらい選んでいただく。読書活動推進計画の中に新図書館の事も込めているので推進していく。

教育委員：図書館の選書はどういう仕組みになっているのか。監視できているのか。

市長：心配ない。教育委員会の司書もいるし、購入は新刊のみである。市内業者から購入する。

(4) 学力向上及びICT教育について

市長：中学校の学力向上がよい。各学校の先生が努力をされている結果と思う。相乗的な効果であらうし、子供達が何か目標を持ったのではないか。よいことである。幼稚園から大学までの一貫した教育を行いたい。校種間の連携を密にしたい。もう一つ大きいのが機器を活用すること。先生方が指導において機器に頼りすぎでいただいているのは困るが、活用して子供達のよいところを伸ばしたい。

教育委員：すぐわかる子、分からない子がいるので、少し時間をかける部分がほしい。先生を増やして欲しい。

教育長：子供10人のところへ教員2人をつけるとなると日本はパンクする。今あるところで工夫していく。途中で分からない子をつくらない。総合的にすすめるしかない。

教育委員：学校でしないと、放課後サポートも一斉下校であるので難しい。学習サポート教室も送迎が出来ない子は参加出来ない。

市長：お金があれば。工夫をできるだけして。

教育委員：先生の指導によって違う。授業にも影響する。授業力をどうすれば上げられるか。

教育長：広島県が改革を行っており、どの学校でも県教委と同じことを言う。高梁市では1校が小さくなっているので、高梁市全体で1校というようなイメージを持ちながら、全体の研修や職員の力量アップなんらかの具体的対策を今考えています。

教育委員：学力だけでなく感動体験の目玉になるものを打ち出していくのも1つの方法である。

教育長：順位でなく、どれだけ一人一人にきちんと学力をつけるか。

教育委員：意識改革につながっている。先生の教育も大切である。

教育委員：高梁学習サポート教室についてももう少し教えて欲しい。

学校教育課長：土曜日に月2回、川上地区では年間6回実施されている。指導しているのは、教員OB、大学生、退職した幼稚園の先生等である。子供の大半は小学生で、中学生もいるが、土曜日が部活なので参加しにくい。定期試験の前になると人数が増える。

教育委員：指導者は無償か。

学校教育課長：足代のみである。子供は受講無料である。

教育委員：各学校でできればよい。ボランティアでよい。先生の負担を増やすようになってはいけないが。

教育委員：子供が固定し、新たになかなか来ない。

教育委員：習熟度別でサポートが出来たらという話で、そこにボランティアが入ってサポートが

柔軟にできればいきとどくのではないか。

教育委員：川上小はボランティアで授業に入っている。

教育委員：これが展開できれば。それがよいかどうかは分からないが。

教育委員：それが授業の先生の負担になっていないか心配もある。

教育委員：それで効果が出ているのであれば。

教育長：地域の方が授業に入ってもらうことは、高梁では先生の負担になっているようなことはない。これからも進めていかなければならない一つである。

教育委員：登録制でボランティアを募って地域の中の人で力になれるかなと思っている。

教育委員：この制度は公民館が関わっている。

教育委員：担当が確立している地域はよいが。あの学校ではこういうことがされているが、この学校ではされていないというのはどうか。学校は選べないので。

市長：地域に力を出してもらいましょう。

(5) スポーツ振興施策について

教育委員：スポーツ振興計画は、ハード面も含まれているか。

スポーツ振興課長：当然含まれる。

教育委員：子供が遊べる場が少ない。のびのび遊ぶことのできる場所があったらよい。考えていく必要がある。これは要望である。

市長：都市公園の要望があるので認識している。

教育委員：6年住んでいるが、たかはしスポーツクラブピオーネを知らなかった。広報活動はどのようにしているのか。

スポーツ振興課長：ホームページに掲載しているが、さらに広報が必要と思うのでピオーネにお願いしている。

教育委員：市のお金であるのか。

スポーツ振興課長：市ではなく、TOTO（スポーツくじ）です。

教育委員：施設管理が大切だが、点検はできているのか。管理に目を配ってほしい。

市長：点検しないといけないことになっている。

教育委員：子供の体力が落ちている。市外のプールに行っている。旧ゆららの温水プールがあればと思っている。要望である。

市長：頭にいれておきます。

市長：何を決めるということでもなく、意見を交換させていただいた。これからも一緒に頑張ってがんばっていききたい。

閉会市長あいさつ

- ・この会議は、学期に1回くらいは開催したい。
- ・直接意見をお聞きしたので、教育委員会との予算の折衝をしていきたい。
- ・総合計画、総合戦略の実現のために今後も一緒にがんばっていききたい。